

構成員の取組状況について

令和4年6月23日

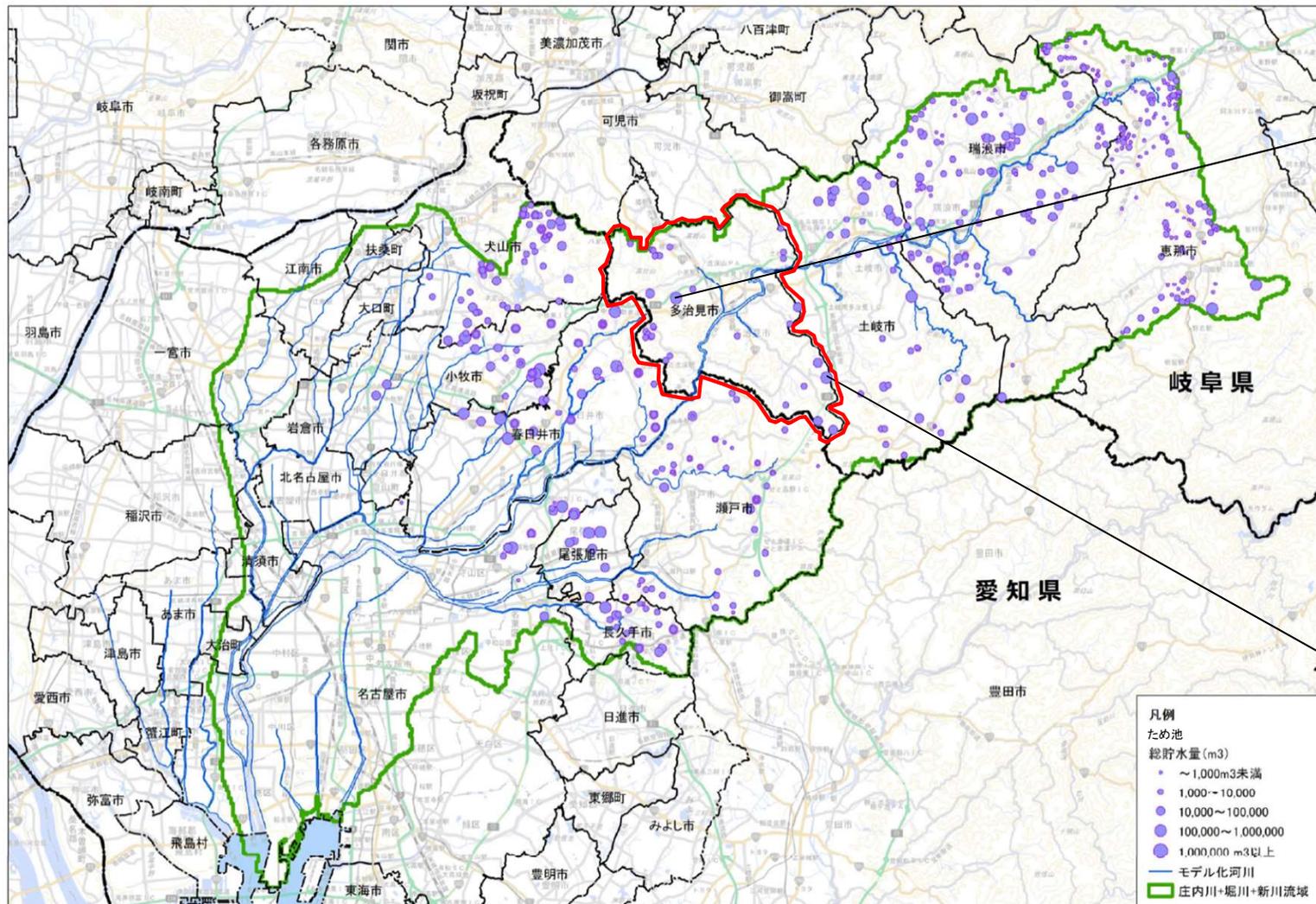
土岐川・庄内川流域治水協議会



ため池の有効活用（多治見市）

- 多治見市には、市内に35の農業用ため池があり、農業用として利用されているため池を、大雨の時に、雨水をためる防災用としても活用できるよう、協定書の締結を視野に入れ、地元管理組合と調整しているところ。
- 現状水位を常時下げておくのか、予報に備えて水位を下げるのか等、治水活用のための貯留量確保の方法について、現在検討中。

<流域におけるため池位置図>



御大典池(みのりがいけ)



総貯留量 (m³) : 352,000

上原一号池(うわはらいちごういけ)



総貯留量 (m³) : 171,000

※愛知県・岐阜県のため池データベースより作成

立地適正化計画への防災指針の位置付け（名古屋市）

- 名古屋市では立地適正化計画として定める「なごや集約連携型まちづくりプラン」への防災指針の位置付けに取り組んでいる。
- 令和3年度には名古屋市都市計画審議会立地誘導部会を3回開催し、有識者と議論を進めている。

◆これまでの検討経緯

○ 第1回名古屋市都市計画審議会立地誘導部会（令和3年6月4日）

【議題】

- (1)なごや集約連携型まちづくりプランの概要と見直しの必要性について
- (2)見直しの内容と進め方について

○ 第2回名古屋市都市計画審議会立地誘導部会（令和3年10月29日）

【議題】

- (1)都市機能及び居住誘導に関する見直しについて

○ 第3回名古屋市都市計画審議会立地誘導部会（令和4年2月15日）

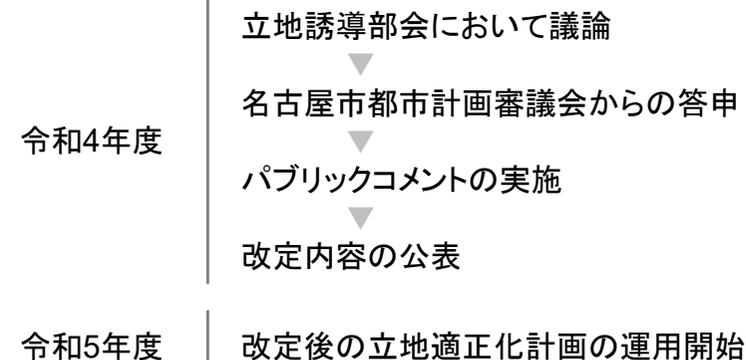
【議題】

- (1)居住環境向上施設について
- (2)低未利用土地の有効活用について
- (3)頻発・激甚化する災害への対応について



第2回名古屋市都市計画審議会立地誘導部会の様子

（今後の予定）



水害リスク情報の充実（庄内川河川事務所）

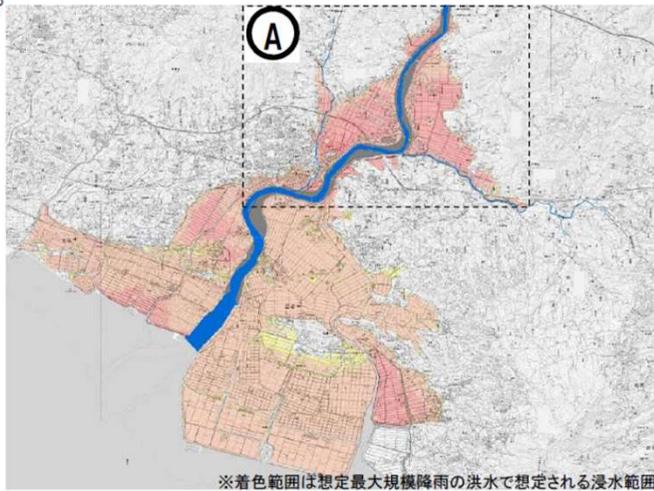
- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ（浸水頻度図）」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。
- 庄内川河川事務所では、直轄区間の外水氾濫を対象とした水害リスクマップを令和4年度中に公表予定。内水も考慮したものを今後作成予定。

水害リスク情報の充実

○水害ハザードマップ

ハザードマップの凡例
浸水した場合に想定される水深

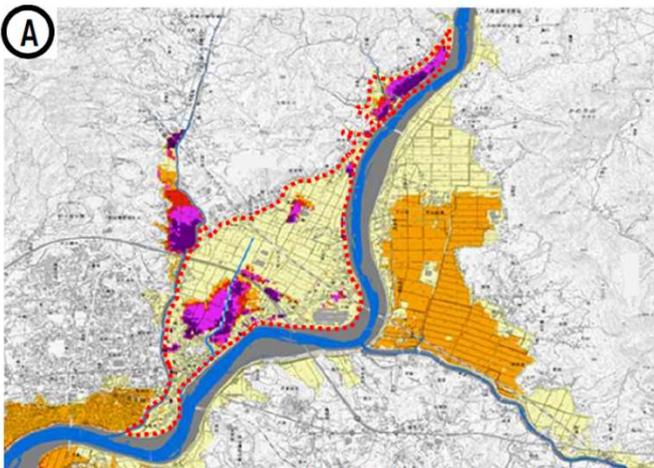
| |
|-----------------|
| 0.5m未満の区域 |
| 0.5m～3.0m未満の区域 |
| 3.0m～5.0m未満の区域 |
| 5.0m～10.0m未満の区域 |
| 10.0m以上の区域 |



○水害リスクマップ^{※1}

水害リスクマップの凡例 ※2

| |
|-------------|
| 高頻度(1/10) |
| 中・高頻度(1/30) |
| 中頻度(1/50) |
| 低頻度(1/100) |
| 想定最大規模 |



※2 上記凡例の()内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。

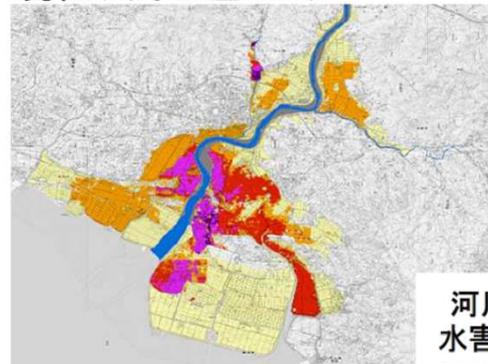
※1 当資料の水害リスクマップは床上浸水相当(50cm以上)の浸水が発生する範囲を示しています。(暫定版)

水害リスクマップの活用イメージ

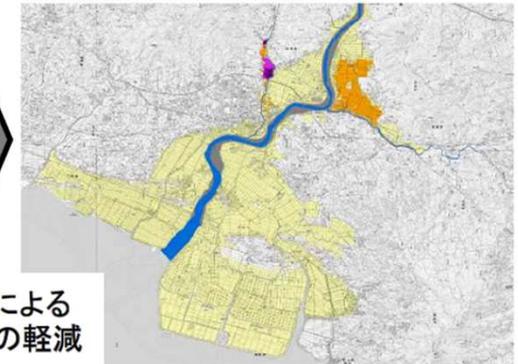
現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)



整備後(外水氾濫のみ)



河川整備による
水害リスクの軽減

【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成